

# 水泳教育における 着衣泳の普及と取り扱いの展望

平成27年6月6日

第15回学校水泳研究会

教育の一番札所



松井 敦典



野村 照夫

# Background

- 「着衣泳」で水の事故防ごう 海外でも注目「Uitemate（浮いて待て）」

2014.7.23 産経新聞

- Technique to prevent drowning catches on

2014.7.23 The Japan Times

# Background

産経ニュース 東京 ☀️☁️ 18°C

関西 オピニオン フォト

ホーム スポーツ エンタメ ライフ 地方 GQ WIRED

皇室 くらし からだ 教育 学術・アート 本 将棋 囲碁 科学 原発・工

PR ミドリムシで妻も驚く程の輝き…ジェット燃料パワー？

PR 基準地価6年ぶりに上昇→わが家は?! / HOME 4 U

2014.7.23 08:30 文字の大きさ 小 中 大 印刷

## 「着衣泳」で水の事故防ごう 海外でも注目「U i t e m a t e (浮いて待て)」

ツイート 0 おすすめ 0 G+1 5 (1/3ページ)

海水浴や川遊びなど夏のレジャー真っ盛りだが、注意したいのは水の事故。警察庁によると、昨年1年間に水難事故で死亡・行方不明になった人は800人を超える。事故で多いのが、洋服を着た状態で溺れるケース。そんなときは、水に浮いて呼吸を確保し、救助を待つ「着衣泳」が有効という。「U i t e m a t e (浮いて待て)」を合言葉に小学校などでは講習が盛んに行われ、海外にも広がっている。(横山由紀子)

◇

# Background

## Technique to prevent drowning catches on

BY [MAMI MARUKO](#)

STAFF WRITER

To prevent drownings, a growing number of children around Asia are being trained using a Japanese technique called “uitemate,” meaning floating and waiting.

The Japanese term reflects a philosophy that when in distress in the water, one should not panic but instead just float, breathe and wait to be rescued, experts say.

According to a survey by the National Police Agency, 803 people in Japan died or went missing in water-related accidents last year.

Of the people involved in water-related accidents, more than 47 percent were over 65 years old, while the rest were mostly between high school graduate age and 65. Only 44 were children below junior high school age.

Hidetoshi Saitoh, vice president of Nagaoka University of Technology and director of the Society of Water Rescue and Survival Research at the university in Niigata Prefecture, said he believes the low number of child victims is largely due to the fact that many youngsters receive training in “survival floating with clothes on,” or uitemate, in school.

Uitemate originates from the concept that many drowning victims fall into the water fully clothed, and it’s important for people to know how to remain on the surface when disaster strikes.

JUL 23, 2014

[ARTICLE HISTORY](#)

[PRINT](#) [SHARE](#)

PHOTOS

[CLICK TO ENLARGE](#)



# Background

- 「着衣泳」で水の事故防ごう 海外でも注目「Uitemate（浮いて待て）」

2014.7.23 産経新聞

- Technique to prevent drowning catches on

“survival floating with clothes on,” or uitemate

2014.7.23 The Japan Times

同じソースを2つのメディアが掲載

「着衣泳」に関する認識・理解に差異がある？

## Purpose

- 「着衣泳」の定義の再確認
  - ＞ 着衣泳の発祥と歴史的経緯を調査
  - ＞ 今後の水泳教育における着衣泳を展望

## Method

- 文献・資料等の検索
- 関係者からの聴き取り

# 安全水泳に関する書籍の発刊

- Fred R. Lanoue

“Drownproofing, A New Technique for Water Safety” (1963)

- 江橋慎四郎/訳

「おぼれないための新しい水泳の技術」(1965)

➤ 初の安全水泳の実用書

➤ 「ラヌーの浮漂」

# 東京教育大学野外運動学研究室

大学院体育学研究科の授業「野外運動学演習」

梅田利兵衛教授（1970年代）

- 登山中に水難に遭うことを想定し，長袖・長ズボン・登山靴・リュックサックの装備着用  
の状態で25mを泳ぐなどの訓練を実施

＞ 野外活動の演習授業の一環

＞ この訓練に対する特別な呼称は無い

# 埼玉大学野沢巖研究室

- 増水した川に小学生が落ちて流されかける事故に遭遇
- 「水中における自己保全能力について」卒業論文(1980)
- 「体育教材研究」で着衣状態での水泳を採用
  - 内容を年々工夫改良
  - 学習内容を総称して「着衣泳」と呼ぶ

# 鈴木勘三氏の水泳指導

- 愛知県の小学校教員
- 背浮き・背泳ぎから始める水泳学習法を開発・推進
- 「だれでも泳げるようになる水泳指導」(1985)の中に「服を着た泳ぎ」
  - 「泳ぐというより、浮いて助けを待つわけです」
  - 現在の着衣泳指導の理念・方法とほぼ同様

# 水泳指導法研究会

- 荒木昭好氏（元東京都立科学技術大学教授）を中心とした水泳指導者の研究グループ
- 着衣泳の実践研究を推進
- 「水泳指導法研究」第1号(1990), 第2号(1992)に多くの着衣泳研究
  - 着衣泳研究の先駆け
  - 実践研究と実践者の増加に貢献

# 河川の親水化と児童の水辺事故防止研究会

- 公益財団法人「リバーフロント整備センター」
- 「河川の親水化」に伴う事故防止
- 荒木昭好, 佐野裕, 野沢巖, 椿本昇三, 野村照夫, 臼井みよ子, 西原巧
- 「河川親水化と水辺事故防止調査研究報告 - ウォーター・セーフティのための着衣泳-」  
(1992)

➤ 着衣泳指導に必要な客観的・科学的基礎根拠  
が蓄積された



# 「はじめての着衣泳 一服を着たまま泳ぐ サバイバル・テクニッカー」刊行（1993）

- 教育内容としての着衣泳について，水難の実態，着衣泳の特徴，課題とすべき内容，指導例等を網羅し体系化
- わが国初の着衣泳指導のベンチマーク

＞これ以降，本書を参考に多くの実践が試みられる

## 学校体育実技指導資料「水泳指導の手引き」

- 1993年版より着衣での水泳指導の取り扱いに関する言及が採用
- 2014年版では着衣泳の内容記述はさらに増強され、その意図や取り扱いの解説とともに、練習法の指導例（入水—浮き身—泳ぎ）が示されている

➤ 学習指導要領での詳細な記載が期待される

# 水難学会（旧着衣泳研究会）

- 齋藤秀俊氏（長岡技術科学大学）を中心とした救急医療情報研究会を母体としたグループ
- 「命を守る着衣泳」（2001）発刊
- 一般社団法人水難学会に組織替え（2011）
- 各地で講習会開催，指導者認定
  - ”Uitemate（浮いて待て）”
  - 海外でも啓蒙活動を実施

# 海外における着衣泳

- GBR, NLD, NOR, USA, NZL, AUS…
- 水泳指導の一部
- 着衣状態を負荷条件として与え、安全力獲得を図る
  - 泳者自身の能動的な安全能力を開発
  - 水難を起こさない、要救助者にならないための自己保全能力の獲得をめざす

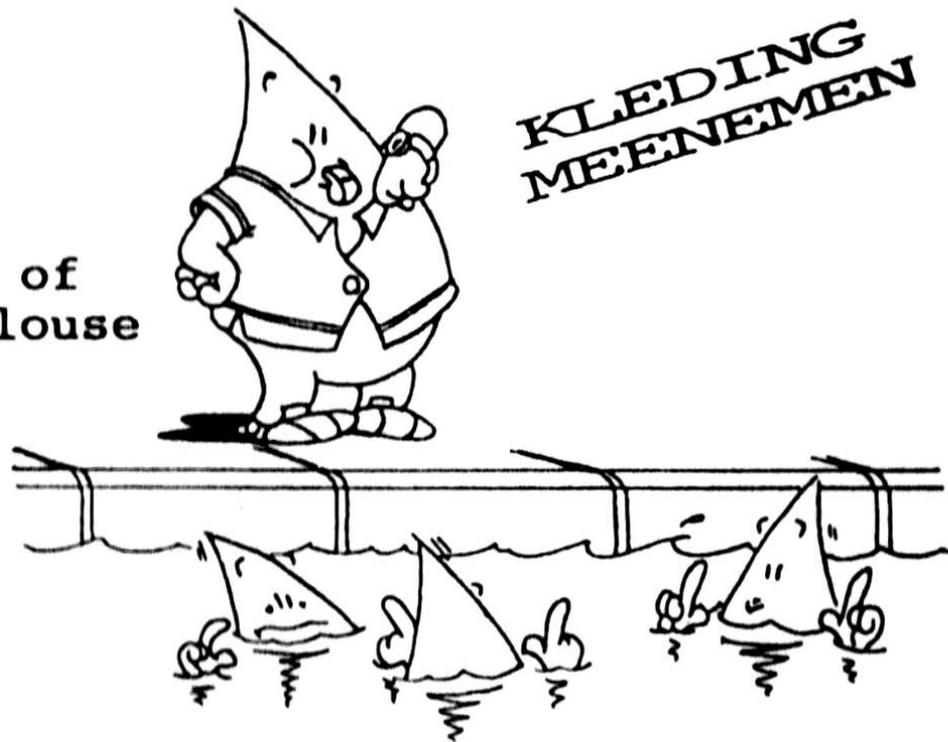
# 海外における着衣泳

Hallo jongens en meisjes,

De volgende les gaan wij met kleren aan zwemmen.  
Wat moeten jullie aantrekken ?

- zwempak of zwembroek
- hemd en onderbroek
- jurk of rok en blouse of broek (met rits) en blouse
- sokken of kousen
- (gym-) schoenen of waterschoenen

de zwemjuf/meester



# 着衣泳はどこで始まったのか

- 世界の各地で発祥
- 衣服をまとって生活する人が水に接する機会があり、生命体としての**安全欲求**と文明人としての**知性**を発揮すれば、自ずから生ずるものではないか。

# 着衣泳の要点

- リスク内容の把握, 安全確保の作戦の立案 (思考・判断)
- 作戦を実行するための水中での諸技能 (技能)
- プロセスが主体的に自信を持って行われること (態度)

# どちらも着衣泳？

- 要救助者にならないための水中の諸技能を獲得することを目的とする着衣泳

swimming with clothes on

- 要救助者が安全に救助されることを目的とする着衣泳

survival floating with clothes on

指導者の立場が反映

# 水泳教育における着衣泳

水泳の基本技能

=

着衣泳に必要な動作

浮く・潜る・呼吸法

姿勢変換・方向変換・停留・移動

水泳と安全に関する知的理解と技能の獲得

- > 水泳の技能学習に関連付けながら実施
- > Water Safety能力の獲得をめざす

# Conclusion

- 着衣泳は、着衣状態における水中での動きの特性を理解し、その状態における合理的な身体操作の方法を学ぶことによって、泳力や安全力を身につけるものである。
- 着衣泳はWater Safety を実現するための手段の一部であり、泳力養成の過程において溺れないための能力を開発することと合わせて計画し実施すべきである。

連絡先 matsui@naruto-u.ac.jp

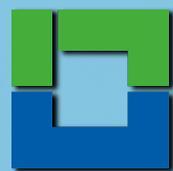
松井研究室WebPage

<http://spbio.naruto-u.ac.jp/>

学校水泳研究会WebPage

<http://www.naruto-u.ac.jp/~matsui/sss/ssstop.html>

教育の一番札所



国立大学法人

鳴門教育大学

*NU*  
SPORTS